

実りある授業のために 中学校（音楽）

〔H24. 冬〕 島根県教育委員会

♪ 1 指導計画作成上のポイントについて

① 題材の指導計画を作成する上で留意したいこと！

・音楽の指導計画における「題材」とは、育成する力を明確にして、一定のまとまりのある学習を行う教育課程を構成する実質的な単位である。

・題材ごとの指導計画を作成する際には、意図的・計画的に学力を育成する視点から、

①題材の目標、明確な本時のねらい ②学習指導要領の指導事項（〔共通事項〕は、題材全体を貫いて重点となる音楽を形づくっている要素） ③教材（ねらいに適した音楽的な特徴等） ④題材に即した評価規準 ⑤実際の学習活動の展開と評価規準の位置付け及び評価方法

などを明確にするとともに、計画全体の整合性・一貫性を確保する必要がある。

② 題材構成のタイプ！

・取り扱う学習指導要領の指導内容の視点から、題材構成については、

- a) 特定の領域・分野のみで構成する題材（歌唱のみ、鑑賞のみ など）
- b) 表現領域における複数の分野で構成する題材（歌唱と創作、器楽と創作 など）
- c) 表現領域と鑑賞領域を関連付けて構成する題材（器楽と鑑賞、創作と鑑賞 など）

の3つのタイプが考えられる。

・上記のうち、bとcのタイプについては、複数の領域・分野の指導事項を共通に貫く「音楽を形づくっている要素（学習の重点となる幾つかの要素）」で構成していくことが重要である。

③ 題材構成における鑑賞の質的充実！

・前述のcタイプについては、〔共通事項〕を要として表現と鑑賞の有機的な関連を図るとともに、鑑賞の質的な充実を図ることが大切である。例えば、以下に示すⅠ～Ⅲのように、学習指導を展開できる題材構成を工夫することが考えられる。

Ⅰ 導入の段階

教材曲の一部を表現したり聴いたりする体験を通して、当該題材で学習する内容（指導内容）に対する興味・関心をもつとともに、題材の学習全体で共通に取り扱う音楽を形づくっている要素（要素の知覚とそれらの働きが生み出している雰囲気などの感受）を意識できるようにする。

Ⅱ 次の段階

音楽表現のねらいに即した教材を用いて、Ⅰの段階で意識した音楽を形づくっている要素の知覚・感受を深めながら、音楽表現の創意工夫や技能に係る力を育み、主体的に音楽表現を追究することができるようにする。

Ⅲ 更に次の段階

鑑賞のねらいに即した教材を用いて、ⅠやⅡの段階で興味・関心をもったり、知覚・感受を深めたりしたこと、さらには、音楽表現を追求した体験なども生かしながら、自分なりに言葉で表す・批評するなどの活動を行い、音楽のよさや美しさを主体的・創造的に味わって聴くことができるようにする。

④年間指導計画を作成するうえで大切にしたいこと！

- ・年間指導計画を作成する際には、各題材をどのように配列するかについて十分に検討する必要がある。その際、各題材で育成する力を明確にし、題材同士の関連性や発展性などを考慮して、前頁の「②題材構成のタイプ！」で述べている3つのタイプの題材を適切に配列することが大切である。
- ・年間指導計画を作成する過程で1年間の学習指導を見通すこと、さらに、複数の学年にわたって見通すことによって、各題材の目標、指導内容、教材、評価等について、再検討する視点を見出すことができる。したがって、〈年間指導計画〉と〈題材ごとの指導計画〉を一体的に検討しながら作成することが重要となる。

♪2 ワークシート作成のポイントについて ～基本的な考え方～

学校教育の「教科」として音楽科があるからには、学力の習得を伴った教科目標の実現が求められる。そのように考えると、音楽の授業で用いるプリントは、学習の成立を前提とし、その授業で学習する内容に興味・関心をもたせ、教材と関わらせて主体的に学習に取り組みせると同時に、その学習状況を評価するという役割をもつことになる。

①授業のねらいに沿って学習活動が進められるようにする！

- ・ここで大切なことは、「授業のねらい」をどのように設定するかということになる。授業を構想する際は、生徒に何をどのように学習させ習得させるのかという具体的な学習内容と学習活動を設定することになる。設定に当たっては、学習指導要領解説に示されている「指導事項」と「共通事項」に基づいて行われることになる。
- ・具体的な学習内容と学習活動が設定されたら、学習の筋道と学習する内容を生徒にわかりやすく示しながら、音や音楽とかかわる中で「気付いたこと」「考えたこと」「新たに発見したこと」など、生徒の思考過程を想定しながら内容を精選することが大切となる。

②学習状況を評価する！

- ・評価規準は、生徒指導要録に示されている四つの観点のそれぞれについて、「この授業では生徒のどのような学習状況で見えるのか」によって設定されるものであり、「授業のねらい」と大きく関係しているものである（指導と評価の一体化）。そのためには、「授業で生徒に期待する学習状況」を「気付いているか」「考えているか」「新たな発見があったか」など、生徒の具体的な様相として想定しておくことが必要である。
- ・「学習評価」は指導したことへの評価という考え方に基づいていることから、評価規準を設けるということは、「何を指導するか」を設定することにもつながる。つまり、学習状況を評価するためのワークシートは、設定した評価規準に基づいた指導を前提として作成することが重要となる。

③音楽の文化的背景に関する情報を提供する！

- ・音楽の文化的背景を単なる参考資料として示すのではなく、学習のねらいと関わらせるため補助的に用いる資料として示すことが大切である。
- ・音楽の文化的背景を理解することは、その音楽にかかわってきた人の思いや気持ちを理解することにつながるものである。その理解が基盤となって、「自分はこのように歌いたい」という「思いや意図」をもつことに発展し、新たな《音楽的な感受》が育まれることになる。このためにも、ワークシートの内容項目には、作詞者や作曲者の名前やプロフィール、教材曲に関するエピソードなど知識の量を問うためだけのものにならないように留意しなければならない。